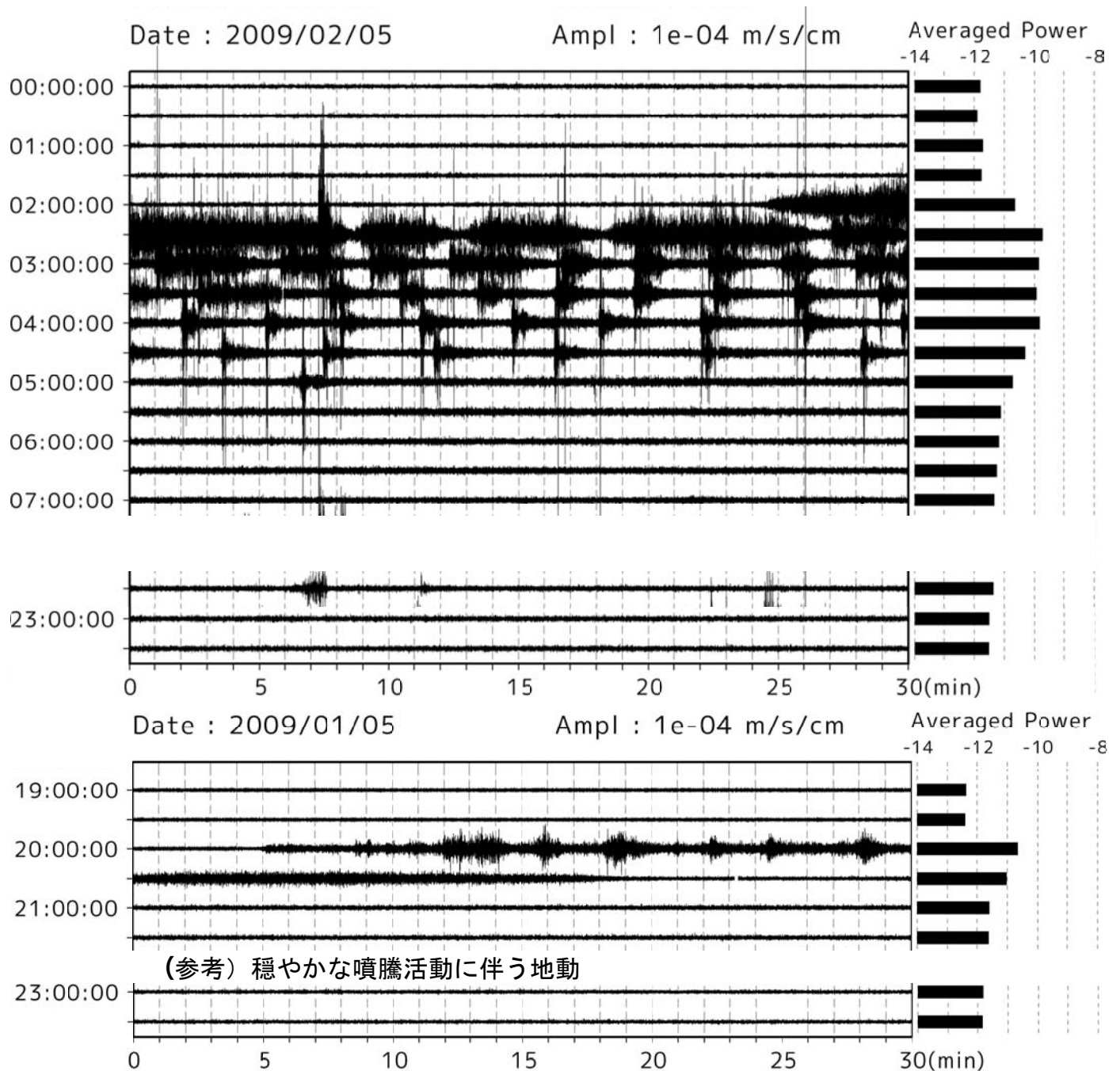


倶多楽火山

○2月5日の熱泥噴騰に伴う地動

これまでの地動と同様に、熱泥噴出開始とともに地動振幅は次第に増大したあと、間欠的な噴出を反映して振幅の増減が繰り返されている。この後、これまでの微動では次第に振幅を減じながら長いコーダが続くが、この微動では継続時間の短い地震のような波形を示す地動が連なり、間欠的な噴出が断続的に続いていることを伺わせる。この活動の後、これまでのような地動が観測されるほか、これと同じ特徴を示す地動も観測されはじめ、熱泥噴出様式が、若干、変化したのかもしれない。



(大島・前川)

図1. 地動記録(上下動成分)

倶多楽火山